



平成 19 年 4 月 14 日
機関紙 通算 226 号
多摩川住宅ホ号棟管理組合

編集：管理組合事務局

ホ号棟防災訓練

3月25日(日)、よりによってこの日の朝は、**防災(避難)訓練**にとって、これ以上の天気はないと思われるほどの**暴風雨**が東京地方を襲っていた。**大雨・強風・雷注意報**が気象庁から発せられ、防災(避難)訓練というより、事実上の避難がホ号棟全体で実施されると云ってよいくらい・・・。

強風とドシャ降りの中、管理組合から「**本日の防災(避難)訓練は実施されます。避難場所は、染地幼稚園です**」との携帯マイクによる放送が各棟に流される。実施する旨の放送をする者は、傘も役に立たず、既にその時点で雨によりグッショリ。

その直後には、調布消防署国領出張所の消防自動車と同じように、ホ号棟を巡回しながら「**本日は、避難訓練を実施いたします・・・**」とホ号棟住民に告げる。さる山公園から染地幼稚園に避難場所が変更になった為、会場設営の準備は、理事や各協力者などで大至急で対応策を講じた。

アルファ米、クラッカー、ポカリスエット、飴、子ども用お菓子など、備蓄食料を参加者に配布する炊き出し班も、野外から屋内に会場が変更になったことにより、当初の提供時間を30分以上繰り上げなければならなかった。

会場準備も炊き出しも大わらわの中、各棟に配置される理事が集まり、最終打ち合わせが行われる。

ヘルメット、マイク、フラカード、ベストなどを着用し、ものものしい雰囲気は辺り



を支配する。

開始の10時を前にして、外はますます荒れ模様。弁慶の七つ道具のような防災グッズを身に付けて？豪雨の中、それぞれの担当部署へ散って行く。この雨の中、どれ程の人が参加してくれのだろうか・・・？と頭の中は、その事だけが支配する。厳しく降り募る雨は、この日の防災（避難）訓練を拒絶しているとしか思えない。

だが事実は違った。

午前10時、各理事の**避難訓練開始コール**とサイレンを聞いて、自宅から階段ごとに集結した人たちは、誰の目にも厳しい雨の中で、いささかもためらいがなかった。各棟が階段ごとに集結し、それぞれの担当理事を中心にして、一斉に避難会場を目指す。

染地幼稚園では、ホールいっぱいにブルーシート（備蓄品）を敷き、避難をして来る人たちを待っている本部役員と消防職員が、口々にこの訓練の不安を訴える。

「何人くらいの人が集まるでしょうネ」と消防署員。

「100人は来てくれると思うのですが・・・」本部役員。

午前10時頃、染地幼稚園の外庭は、想像できる最大の修羅場となっていた。暴風雨は、容赦しない。避難訓練を潰しにかかっているとしか思えないほど荒れまくる。

やがて階段ごとに集まり、人数確認を受けた各棟の避難集団が、続々と幼稚園に入場してくる。

会場に近い棟が、先頭を切ってホールに整列をする。

おや・・・予想よりも多いかな・・・。会場が近いせいかな・・・。と頭の中を微妙な空気が流れる。ホールの外に目をやれば、雨足は一向に弱まる気配を見せていない。

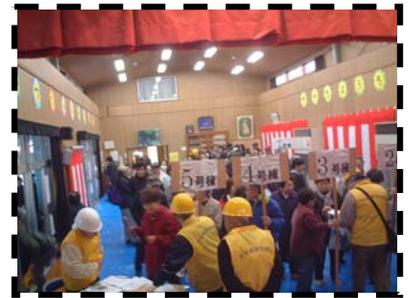
2～3棟がホールに入場し終える頃には、ほとんどの棟が幼稚園に到着してきて、側面の出入口は避難者で一杯になる。

この暴風の中、子どもが多い。お年寄りがたくさん詰め掛けている。壮年の男女も続々と終結してくる。

棟ごとに演壇に向かって並び終えた時には、ブルーシートの会場は全て人で埋めつくされた。

本部の集計が始まる。

集まった人達は、本部の指示に従って極めて統率のとれた集団と化している。本部からメモが届く。



「217名が集結した」

「石川県で震度6強の地震が今朝発生した」と伝えられる。

「217名…う～ん」消防署も本部も絶句する。

まさかこれ程の人達が、ホ号棟の各棟から避難をしてくれるとは…。会場全体に「本日の避難訓練参加者は217名です」と伝えられる。

「ウオ～ッ…」という声にならないざわめきが起きる。

起震車による地震体験も、煙体験ハウスの実験も残念ながら豪雨により中止となったが、今回の防災（避難）訓練の最大の目的はただひとつ。

・ **階段の住民同士が団結して、高齢や障害そして小さな子ども達など、災害時に機敏に行動がとれない人達を支え、助けながら共に避難をする。** というもの

760名の住民のうち、217名が階段ごとにまとまって、避難をすることが出来たことは最大の収穫だ。

会場はぎっしりと埋まったけれど、その後に行われた消防署からの防災訓話や、ホ号棟で新しく各階段に設置した消火器の使い方訓練など、集中力を乱すことなく消化していくホ号棟。

途中、炊き出し班から参加者への防災備蓄食料の配布体制が整ったとの報告があり、各階段の代表者が中座しても、その間会場は落ち着いていて乱れることはない。

各人の支給品が配布されることと並行して、ホ号棟の防災備蓄品の現物紹介が行われる。

各備蓄品は、災害時だけに活用するのではなく、常時必要なときに使用して下さいとの説明などもあった。

昨年秋（11月下旬）に予定していたホ号棟防災訓練は、やはり雨とその時期には一番寒い天候となり、残念ながら延期をした経緯がある。

しかし今回は、春のお彼岸以降ということで、何が何でも実施する予定でいた。

しかし…それにしても我々の予想をはるかに超える悪天候下の訓練。

そして、そのまたはるか上をゆく避難訓練参加者の多さと、一糸乱れぬ団体行動は、ホ号棟住民の力「**地域力**」が相当高まっていることの実証となり、心強い限りであった。



防災訓練雑感

担当理事 加藤

あいにくの雨模様、雨天決行で役員一同 8 時過ぎより、さる山公園での実施を雨天時予定の染地幼稚園のホールに変更決定した。引続き準備にかかり、臼井事務局長とホ号棟全域に、10 時訓練開始するとの事前予告のアナウンスに回った。9 時 30 分過ぎには、消防車からの全域防災訓練実施の放送を流していただき、10 時に各担当理事が各棟にマイクによるサイレンと避難開始をコールする。

階段委員も出席者をリードして階段下に誘導点呼。担当理事と共に揃ってホールに集合し、防災訓練を開始。雨模様にもかかわらず、事前出席予定約 240 名中 217 名が出席。会場のホールも満員となる。

- ① 理事長はじめ、消防署の担当者も大感激で賛辞の挨拶をされました。
- ② 事前の数次のポスター広告(掲載)や「清流」による告知、階段委員の参加者への PR 徹底等が好結果につながった。
- ③ 終了間際には雨も上がり、防災非常食用のアルファ米の炊き込みおこわ、ポカリスエット、クッキー、子ども用に菓子類が提供され帰宅。
- ④ 今回特に感じられたのは、90 代のご老人から赤ちゃんまで、各年齢層の住民の皆様が積極的に参加され、ホ号棟住民の防災に対する意識の高さが証明され、担当理事としては大変感動いたしました。

防災訓練について

担当理事 高橋

東京消防庁には、起震車が 2 台あります。使用日時を決定して、3 ヶ月前に申し込みをして抽選により決まります。

ホ号棟の防災訓練には、起震車が来る予定でしたが、訓練日の 1 週間前に故障により配車できないとの連絡がありました。

起震車に代わるものとして、煙体験ハウスを予定しておりましたが、雨天の為、野外の訓練は中止し、染地幼稚園での**消火器の取り扱い訓練**と、**三角巾による応急救護訓練**となりました。

訓練指導は、調布消防署国領出張所の中山主任にさせていただきました。管理組合では、**消火器を購入**した関係でタイミング的に良かったと思います。

当日の暴風雨で 217 名の参加者には、消防署の職員は皆**ビックリ**しておりました。

管理組合の防火管理者として届け出をしている関係で、今後、消防との交渉は、今まで通り高橋が担当したいと思っております。

